

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成30年9月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500086		
法人名	社会福祉法人守皓会		
事業所名	グループホーム愛宕苑		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	有田市港町29-1		
自己評価作成日	平成30年7月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成30年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①グループホーム独自の目標:皆で1つの家族、十人十色の笑顔作り、地域交流を大切に。の目標を全職員が心掛け、入所者だけでなく家族も交えた笑顔づくりを目指しています。
- ②地域の交流にも力を入れており、平成24年より開催している秋祭りは、併設している特養と合同で規模拡大し、地域住民との交流の機会を深めています。
- ③入所者が外出を希望する場合は、職員と一緒に付き添いを行い気分転換を行えるようにしています。
- ④協力病院は、本人に必要なに応じて訪問診療に来て頂く事ができるため入所者の心の変化に気付いてもらいやすい。併設している訪問看護ステーションより週1回健康観察や連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。
- ⑤年2回行う防火訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。また隣接する施設に3日分の非難食を備蓄している。
- ⑥特養と合同で30年度より認知症カフェを開催し、地域との交流の機会につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JRきのくに線(紀勢本線)箕島駅より、タクシーで約4分の国道42号線沿いに2階建てのグループホーム愛宕苑がある。法人理念や行動指針に沿って、事業所独自の目標を定め、ユニット毎に年間目標を掲げている。利用者の個別支援に力を入れており、利用者の希望に沿って少人数で外出外食へ出かけたたり、個々の能力に合わせて献立や買い出し・調理など、利用者が役割を持って笑顔で暮らすことができるよう取り組んでいる。入りたい時間帯に入浴ができるような支援や、トイレでの排泄または紙パンツから布パンツへ切替ができるなど、高齢者の尊厳を大事にしている。

協力医や併設の訪問看護ステーションとは密に連携を取っており、24時間対応が可能となっている。重度化した場合などは事業所の指針を説明し、看取り期は家族と一緒に泊まることができるような環境を提供している。看取り後、事業所で過ごした思い出の写真などをデータ化して家族に渡している。

法人が主催する秋祭りや防災訓練では、地域住民の協力や参加があり、良好な関係を構築している。事業所は予備室を活用し、ショートステイの利用や地域で困った人の助けとなるように地域貢献事業を本年度より開始した。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が法人の理念、グループホーム独自の目標を理解し実践につなげられるよう毎朝の朝礼で唱和している。また「笑顔でのあいさつ」「清掃」を心がけている。	法人の理念や行動指針に沿って、事業所独自の目標を定め、事務所内や玄関に掲示し、朝礼で唱和するなど職員に意識づけている。 毎年、ユニット毎に個別支援を目指した目標を掲げ、職員間で話し合い、理念の実践に向け、日々のケアに反映できるように取組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3月には、ウエノ公園の清掃活動や、10月には秋祭りを実施し、地域住民への参加を呼び掛けている。	自治会に加入していないが、地域の活動や事業所の行事などを地域の回覧板で情報交換している。 事業所は、毎月行われる地域の清掃活動への参加や中学校の職場体験の受け入れを行っている。隣接する同法人と合同で主催する秋祭りには、地域住民250名程度が参加する行事となっている。利用者や家族が職員と一緒に出店のおでんなどを作り、地域住民が交通整理するなど協力関係を築いている。 また、小学校の運動会や餅つき、地域の「秋祭」に、利用者は職員と一緒に観覧し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月24日に地域の方を招いた認知症カフェを実施しており、2か月に1回の年間計画を立てている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>月に2回運営推進会議を行い状況報告や意見交換を行い、運営に役立てている。</p>	<p>年6回開催する運営推進会議には、利用者・家族代表・地域住民・市の職員・協力医療機関院長・法人理事長・事業所職員等が参加している。</p> <p>パワーポイントを活用し、写真や動画などで日々の利用者の暮らしぶりや事業所の活動報告を行っている。さらに、サービス内容や地域の行事などについて意見交換を行いサービスの向上に繋がるように話し合っている。会議録を残し、職員間で情報を共有している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市役所の方から地域のイベントの情報を聞き個別レクリエーションにつなげている。</p>	<p>市の担当者と事業所の空き状況や運営に関する事などを話し合っている。事業所の予備室を利用し、ショートステイの利用や社会福祉法人地域貢献事業を運営する相談を行い、本年度より開設することとなった。</p> <p>市の主催する地域住民向けの講座「介護者教室」で、事業所職員は認知症についての講演を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>①開設以来身体拘束は行ったことはない。</p> <p>②毎月第1火曜日に身体拘束ゼロ委員会を設置している。</p> <p>③ユニットの玄関は開放しているが、建物の正面玄関は国道となっている為、安全第一に考えやむを得ず施錠している。入所者が外出を希望する場合は、職員と一緒に出かけるようにしている。</p>	<p>身体拘束ゼロ委員会を設置し、毎月会議を開き、身体拘束を行わないケアについて協議している。職員は年1回以上の研修を受け、常日頃のケアの中で自身の言葉使いや表情にも気を付けている。毎月の職員会議で話し合うことも多い。</p> <p>ユニット出入口は開錠しており自由に移動することができる。事業所前の道路は交通量も多く危険なため、安全を優先し建物玄関は施錠している。外出希望があれば、職員と一緒に同行できるように支援している。</p>	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>①同法人施設主催の虐待防止についての勉強会を年に1回行っており参加している。</p> <p>②職員間で何でも話し合える環境づくりを心掛けている。</p> <p>③年に2回管理者との面接の機会を設け悩みを傾聴する等の対応をしている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業の研修出席した職員は伝達講習を行っている。全職員が学ぶ機会を作っている。また、勉強会では、虐待や身体拘束の事例を用いてより理解しやすくまた、意見交換を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、管理者を通じて、入所者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分説明を行い、理解・納得を得ている。</p>		
10 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見が言いやすい環境づくりを行い。面会時に話や状況の報告を行っている。また、1F受付に意見箱を設置している。</p>	<p>利用者との何気ない日常会話の中に隠れている思いや要望を聞き逃すことがないように注意している。</p> <p>年2回、担当職員が家族宛に写真や手紙などで暮らしが分り易いように近況報告している。家族への電話連絡や家族が事業所を訪問した際に意見や要望等を聞き取っている。</p> <p>聞き取った要望等はケース記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。少人数の外出・外食の機会を取り入れるなど、意見や要望を運営に反映できるように努めている。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を行い職員の意見や提案を聞いており、また、職員個々との面談時にも意見や要望を聞いて反映している。</p>	<p>管理者は年1回、人事考課を含め個別面談を行っている。また、普段から職員とコミュニケーションを図り、人間関係での悩みや業務の改善などの意見が出易いように時間や場所に配慮して職員の意見を聴き取っている。事業所の業務改善や備品の購入や日々の利用者へのケア、法人の年1回の提案月間で出た職員意見による制服廃止など様々な意見を運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>①職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映している。 ②年度始まりに、職員一人ひとりに目標計画を作成させている。管理者が計画を把握し年に2回職員との面談を実施し職員環境や悩み相談、目標達成に向け助言するようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のレベルに合わせたステップアップトレーニングを行い職員のスキルアップに努めています。また今年度からキャリア段位制度も導入しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>実践者研修でグループワークを行う際、意見を共有しサービス向上に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、入所者の不安や要望に耳を傾けるように努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い入所前の生活環境に出来るだけ近づけるように本人の希望も多く取り入れ職員間で検討しあっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設利用間もない入所者の家族からの要望や悩みを傾聴し不安を解消出来るようなサービスを提供する。また、事業所として出来ること出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前調査の情報とご家族の情報などを元にケアプランの原案を作成している。その中でまず最優先されるサービスをチームで考え、ひとつずつ丁寧に利用者が満足できるように対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者がやりがいを感じられる支援、また、できることを継続してもらえるようにと一緒に調理や買い物などを行っています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と面会時会話をしたり、秋の運動会に参加して頂いたりし交流を持っています。また今年度から夏の花火大会を行い、家族に来ていただき交流を持ちます。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>個人情報に注意しながら、今まで通っていた美容室の利用、馴染みの方の面会、馴染みの場所への外出、居室にも懐かしい家具を持参して頂き使用している。</p>	<p>職員と一緒に通い馴染れた化粧品店やお墓参りに出かけたり、家族と一緒に馴染みの美容室へ通っている。知人の来訪を歓迎することや手紙等がくれば返信ができるように支援するなど、継続的な交流ができるように働きかけている。普段の散歩や買い物、赤岩観音へお参りに行く際など、地域住民と挨拶を交わし新たな馴染みの関係を築いている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、入所者同士の間に入り、コミュニケーションが取り合え良好な関係を築けるよう努めている。また、イベントや音活クラブなど入所者同士が交流できる環境作りを支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了した後も、入院された方については見舞い、電話連絡を行っている。他施設に入所された方については、面会へ行くことはあるも家族に対しては会えた時に挨拶する程度である。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>誕生日の献立で本人希望の食事を提供している。</p>	<p>利用者や家族から生活歴や馴染みの関係などを聴き取り、センター方式を活用して利用者の思いや意向を把握している。普段の生活の中で、利用者の表情やしぐさを観察し、何気ない会話などで利用者の思いに気づき、食べたいものや行きたい場所などをケース記録等に記入し職員間で共有している。</p>	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>センター方式の活用と家族から情報収集を行い、その人の暮らしぶりを把握するようにしている。また、定期的に担当者会議を行い経過の把握が出来るように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>センター方式を活用して24時間シートを作成。日々の暮らしの中で、出来ること出来ないこと等の把握をするようにしている。日々の変化を申し送りで伝達し、把握するようにしている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各担当者がアセスメントシートを記入し、定期的に担当者会議、ケース会議を行い、本人、家族の要望と現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>センター方式を活用し利用者の意向を把握している。家族には担当者会議の呼びかけを行っており、参加できない場合は、意向や要望を事前に電話や訪問時に聴き取っている。介護計画作成時は担当者会議を開催し、利用者や家族の意向や心身の状況、担当職員の意見等を反映した介護計画を作成している。半年ごとにモニタリングし、状態に変化があれば、随時介護計画を見直している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に記入し朝・夕と申し送りを行っている。月1回認知症ケア会議を行い職員間で情報を共有している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>月に2回、美容ボランティアに来ていただき、本人の髪の状態を見て散髪を行っている。空き部屋をショートステイとして受け入れる体制をしている。</p>		

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議などを通して、民生委員、自治会の協力を得ることで、地域資源を把握、活用している。また、避難訓練、防災訓練を消防、近隣住民と行うことで、安全に暮らせるよう努めている。</p>		
30 11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所者、家族が希望する医療機関に受診することが出来るように支援している。また毎週訪問診療による受診を支援している。</p>	<p>かかりつけ医を受診できるように支援している。入居後は、家族の送迎負担を理由に協力医に変更する利用者もいる。また、家族の要望により受診先の医療機関まで職員が付き添い家族と待ち合わせて受診する利用者もいる。</p> <p>全ての受診結果と薬情報は、家族と共有し、事業所内でもケースファイルや申し送りノートで共有している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設している訪問看護ステーションより週1回健康チェックを受けている。入所者の状態や情報、気付きを報告し、入所者急変時などにはすぐに連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはサマリーを持参し入所者の情報提供をしている。定期的にお見舞いに行つて、病院、家族との情報交換、関係作りに努めている。また、連携している桜ヶ丘病院以外に入院した際も報告、連絡を怠らず情報の共有に努めている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援内容について説明している。また、看取り介護の勉強会を行い介護職員の方針や対応を共有するよう努め、家族、医療関係者との連絡を密にして看取り介護を行った。</p>	<p>入居時に重度化と看取りに関する指針の説明を行っている。看取りの時期が近づいた際には再度話し合いを行い、意向を確認した上で書面による同意を得ている。 看取り期には家族が泊まって利用者の側に付き添うことができる。事業所は看取り後の家族に対して、これまで事業所で過ごしてきた思い出の写真をCD化して渡すなど、家族に対しての配慮も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っており、医療機関への連絡方法や一連の流れを全職員が把握・実践できるよう努めている。また、施設職員の緊急連絡体制を整えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらおうよう促している。また隣接する施設に3日分の非難食を備蓄している。</p>	<p>消防署立会いの下、4月と10月に隣接する同法人の運営する他事業所と合同で訓練を行う他、独自に夜間を想定した避難訓練を5月、防火訓練を11月に行っている。地域の回覧板で地域住民にも訓練の参加を呼び掛けている。各ユニットにはヘルメットやヘルメットに装着できるライト・ラジオ・笛等をいくつか常備している。職員が安全確認を行った後に誘導する利用者や担架や車椅子で避難する利用者についての話し合いも行われている。全職員が名札の中に緊急時にそれぞれが取る行動を記入したカードを携帯して混乱を回避できる工夫を行っている。 福祉施設を災害時の避難場所としているため、利用者と職員の備蓄品は事業所内ではなく福祉施設で保管している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の個室があり、扉からすべて見えないようにしている。利用者の性格を把握しトラブルにならないように職員が仲介に入る。</p>	<p>利用者に対しての言葉遣いや呼び方などは、日頃の支援の中で指導している。初めての面会者等については、未然のトラブル回避のため、利用者との面会の是非を家族に確認を行うよう、職員に指示をしている。居室扉のガラス部分から居室内が見えないように目隠しを行っている。年1回、個人情報保護に関する研修を実施している。利用者情報は、鍵のかかる書庫にて保管している。</p>	
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>誕生日会の際本人が希望する献立を実施している。おやつ水分補給をする際本人に飲みたいものを聞いてから提供している。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床や就寝時、その人のペースに合わせた介助をしている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>モーニングケア、季節に合わせた服装を着ていただく。外出される際、本人持ちの化粧品を使用していただく。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スーパーに職員と一緒に買い物に行きその日の献立の分を購入し一緒に調理や盛り付けを行っていただく。</p>	<p>献立は毎日利用者と職員が話し合っ て決めている。利用者と職員が一緒 に栽培し収穫した季節の野菜をメ ニューに取り入れている。利用者と職 員は毎日食材の買い出しに出かけ、 一緒に調理している。 利用者がそれぞれ得意な包丁使い や盛り付け等で力を発揮している。月 に数回は卓上でお好み焼きや鍋・オ ムライス・焼き飯など全員が楽しみな がら参加できる食事を取り入れている。 外食は、利用者がそれぞれ2カ月に 1回くらいの頻度で、職員2名に対し て利用者2名程度で予約をしてゆっく りと堪能できるように支援している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士による献立をベースにして 作成している。栄養面への配慮をし、体 重表の管理、食事、水分量を毎日記録 し把握している。食事や水分の摂取が困 難な方に対しては、管理栄養士に相談 し、連携をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に 応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時、食後に一人ひとりの力に応じた 口腔ケア支援を呼びかけ実施している。 就寝時には義歯の管理、洗浄を行って いる。 また、協力歯科医による勉強会を月1回 (第3木曜日)に参加して知識を高めてい る。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表の記録を行い、入所者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。また、定期的に排泄表を確認し、できるだけトイレにて排泄ができるよう誘導、支援をしている。</p>	<p>排尿と排便それぞれの記録をとり、利用者のタイミングに合わせた誘導ができるように支援している。排泄のタイミングを合わせることで、入居時は紙オムツを使用していたが、布パンツとパッドの組み合わせへと変更できた利用者もいる。</p> <p>排泄支援の際には、できるだけ職員はトイレの外で待機するようにプライバシーにも配慮している。便通の悪い時は腹部を温めたり、ヨーグルトやバナナ等で改善できるように工夫している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表をつけるとともに1日の水分量の把握をしている。便秘の方には医師に相談し服薬コントロールをしている。また、日常より乳製品の摂取、運動を促したり、腹部マッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回入浴していただけるよう声かけしている。拒否される方、時間を希望される方等、個々に合わせ入浴をしていただいている。ADLに合わせ中間浴一般浴を設置している。</p>	<p>週2回の入浴を支援している。午前中に入浴することが多いが、要望があれば夜間に入浴することもできる。家族が持参した使い慣れたシャンプーやボディソープを使用する利用者もいる。冬至にはゆず湯に入るなど季節を感じる工夫も行っている。</p> <p>車椅子から負担なく入浴ができる中間浴を設置している。長湯を楽しむ利用者もいるが、入浴を拒否する利用者もあり、拒否の場合は時間帯や声掛けの職員を変える等の工夫をして入浴を促している。長期に渡り拒否する場合は、精神科医に相談する事もある。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間、良眠していただけるよう個々の入所者の入眠時間を希望に沿う形で促しており、また、日中の活動時間を増やしていく支援を行っている。安眠につながるよう光や音が居室に入らないよう配慮している。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>飲み忘れなどの誤薬が起こらないよう、各職員が責任を持って服薬チェックを行い、リーダーがもう一度確認を行っている。症状が変化した場合、医師、薬剤師へ報告し指示を仰ぐよう統一している。また、薬剤師による薬の種類、効能についての勉強会を年に2回実施している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員と一緒に調理や洗濯物を畳んだりしていただく。また今年度から個別レクリエーションの機会を増やし楽しみを持った気分転換をしていただく。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>定期的に外出するレクリエーションを企画している。各個人が希望する外出については家族に意向を伝え、計画し実現に向け努めている。外出や外泊は自由にすることができる。</p>	<p>湯浅城や鮎茶屋温泉・海南水族館など定期的に外出の機会を設けている。家族と墓参りに出かけたり、馴染みの美容室に出かける利用者もいる。赤岩観音には日常的に散歩に行っている。日頃の食材を買いにスーパーマーケットに出かける利用者も多く、個別支援の外出は、全員が2ヶ月に1回程度希望する飲食店に出かけている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人持ちのお金で買い物や食事をする。管理が難しい利用者は預かっている。</p>		

51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話対応は予め家族に電話しても良いか意向確認している。できる限り入所者本人が自由に電話できるよう配慮している。手紙も利用者本人が書き家族面会時に渡すようにしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じていただけるように絵や習字をしていただく。車椅子が通りやすいように廊下の整理をしている。</p>	<p>共用空間にはソファを設置した畳コーナーがあり、冬はこたつを設置して自由にくつろげるスペースを確保している。通路以外の利用者の動線も車椅子が通れるように配慮している。壁面には毎月季節を感じられる作品を利用者と一緒に製作して飾っている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室で過ごされたり、ソファでTVを見て過ごされたりと思いつきに過ごしていただいている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや、衣装ケース、写真を部屋に装飾し本人が過ごせやすい環境作りをしている。</p>	<p>居室への持ち込みは自由で、それぞれ馴染みのあるものを使用している。ベットを備え付けてあるが、布団を好む利用者は畳を敷いて布団を使用することもできる。思い出の写真を引き伸ばしてポスターのように貼っている利用者や、元教師の利用者の部屋には学校の机が持ち込まれている。それぞれの室温は職員が利用者の適温になるように調整している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの出来ることを理解した上で、その人の力に応じた行動を見守り支援するよう努めている。また、歩行や車椅子スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫した作りになっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聞いており信頼関係がで きている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない